

情報の宝庫としての「医療」

国立精神・神経センター国府台病院

神経内科 湯 浅 龍 彦

昨年より本誌「医療」の編集委員に就任し、丁度1年になります。折しも東条毅先生が編集委員長にご就任になられた直後ということで、編集会議の様相が著しく変貌しつつある時期にあたりました。そこでは、常々新編集会議の熱気を身をもって感じさせて頂いております。

本誌49巻9号の編集余滴に編集委員長自らが所感として述べられていますように、この度の編集委員会の最も重要な改革点は、投稿論文の審査制度の確立ということにつきます。これは、医学雑誌としての質を高め、それを維持する為に最も基本的かつ重要な事柄と考えられますから、まことに当を得たことと思います。しかし、会員の中には編集委員会からのコメントの厳しさに幾分戸惑っておられる方もあるかもしれません。が、それも編集委員会の情熱の一端であるにご理解頂ければ幸いに存じます。

さて、本誌は、言うまでもなく国立医療学会々々で構成される会員の為の医学総合雑誌であります。日本内科学会や外科学会ですら内科系と外科系に限定されるのに対して、本学会の会員構成は、内科系も外科系も含めたあらゆる診療科目を包括する極めて学際的な学会である点が他の学会に見られない大きな特色であります。その構成員の職種の多様性こそは、本学会のメリットでありましょうし、それが逆に論文査読となると難問を呈することにもなるのであります。

しかし、これだけ多くの職種の方に窓口を開いている本誌「医療」は、他の学術雑誌では決して得られない総合的包括的医療の貴重な情報源、つまり宝庫ともいえるのではないのでしょうか。このように多様な背景を有する約2500人からなる会員にとって、本雑誌をすべからず意義深いものにすることは、実際には並大抵の事ではないと感じておりますし、本誌の目的と役割をどのラインに設定するのかは、編集委員一同が日頃から頭を痛め、且つ真剣に討論している点でもあります。

いまや、世を挙げて情報社会のまっただ中です。いろいろな情報が種々な形で氾濫しています。画像も、文献も、ちょっとしたアイデアも、そして世界中で発行される学会の情報など殆どあらゆるものが、インターネットのキーを叩くだけで皆さんの手元に瞬時に届くであります。そのような情報氾濫社会にあって、毎年定期的

に行われる国立医療学会であるとか、そして、本誌のような印刷物としての情報メディアの役割やいかにと考えられたことは、皆様方にも一度や二度はおありではないでしょうか。皆様のお考えはいかがですか。本誌のどこに意義をお認めになりますでしょうか。ここでも色々な考え方があろうかと思いますが、一編集委員としての立場（思い入れも多分にありましようが）からすれば、結局のところ学会も雑誌もその存在意義は決して衰えたり、なくなったりすることはないであろうという事です。むしろ、益々必要性が増大するかもしれないのです。

インターネットで伝えられる情報は、主張者の顔が見えず、その意図も汲み取れず、乾いた情報であると思います。それらの情報の真偽を確かめ、情報発信人の意図を知るにはやはり学会で、直接意見を聞くという作業がどうしても必要であるからです。また、我々が医療という人間を対象とする職業に関与しているからです。我々に必要な情報は、単なる数値化されたデータではないのです。生身の人間に生じた情報は、人から人へと伝達されるべきものであろうと思われるからです。それが故に本誌「医療」の役割は、病気を持った人々に生じた、種々の医学的事実を科学者の目をもって厳正に分析し、得られた結果を広く開陳し、もって医療の進歩に貢献するところにある訳です。

従って、私は、基本的には、一例であっても、症例報告には最大の意義を求めたいと思っています。皆さんが診療をなさり、ご覧になっている症例の一例一例には、紙面には尽くせない程の科学的真実が存在する訳でありますし、その背景には人間ドラマも存在するでありますから、それを、ぜひ科学的な態度で分析し、執筆されて本誌にご寄稿いただきたいというのが新米の一編集委員からのお願いであります。

また、本会々員の所属機関を考えてみましても、日本を代表する各種のセンター、研究所、基幹病院等が多数存在する分けてして、ポストグラジュエイトの研修病院としての責任は今後より重くなってゆくであります。それに並行して本誌の役割もまた飛躍的に増大するでありますから、編集委員としては今から足腰（いや頭でしょうか）を鍛えておかなければなるまいと思うこの頃です。

結局のところ、会員の一人一人が本誌に何を期待し、どの様な熱意をもって反応していただけるのかということで本誌の運命も決ってくると思います。専門誌であれ、総合医学雑誌であれその雑誌の質の善し悪しは、投稿される原著論文に依るわけですから。